

第6章 特別活動

第1節 特別活動の意義

1 特別活動の目標と三つの視点

(1) 特別活動の目標

【小・中学校】 ※ () は中学校

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己（人間として）の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

【高等学校】

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

(2) 特別活動における三つの視点

① 「人間関係形成」

集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点。互いの違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることで人間関係形成に必要な資質・能力を育む。

② 「社会参画」

集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする視点。学校は一つの小さな社会であると捉え、様々な集団において、自発的、自治的な活動を通して個人が集団へ関与することで社会参画に必要な資質・能力を育む。

③ 「自己実現」

集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点。自己の理解を深め、個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる課題を考察する中で自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力などの自己実現に必要な資質・能力を育む。



よりよい生活はよりよい集団から生まれるものである

(3) 特別活動の各活動・学校行事の目標及び内容

		小学校	中学校
学級活動	目標	学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。	
	内容	(1)学級や学校における生活づくりへの参画 (2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現	
児童会活動 生徒会活動	目標	異年齢の児童（生徒）同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。	
	内容	(1)児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営 (2)異年齢集団による交流 (3)学校行事への協力	(1)生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2)学校行事への協力 (3)ボランティア活動などの社会参画
クラブ活動	目標	異年齢の児童同士で協力し、共通の興味・関心を追求する集団活動の計画を立てて運営することに、自主的、実践的に取り組むことを通して、個性の伸長を図りながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。	※部活動は教育課程外の学校教育活動であるが、以下のように定義されている。（中学校学習指導要領総則より） 生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。
	内容	(1)クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営 (2)クラブを楽しむ活動 (3)クラブの成果の発表	
学校行事	目標	全校又は学年の児童（生徒）で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。	
	内容	(1)儀式的行事 (2)文化的行事 (3)健康安全・体育的行事 (4)遠足・集団宿泊的行事 (5)勤労生産・奉仕的行事	(1)儀式的行事 (2)文化的行事 (3)健康安全・体育的行事 (4)旅行・集団宿泊的行事 (5)勤労生産・奉仕的行事
高等学校			
ホームルーム活動	目標	ホームルームや学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、ホームルームでの話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して、実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。	
	内容	(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画 (2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現	
生徒会活動	目	異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の	

	標	解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。
	内容	(1)生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2)学校行事への協力 (3)ボランティア活動などの社会参画
学校行事	目標	全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。
	内容	(1)儀式的行事 (2)文化的行事 (3)健康安全・体育的行事 (4)旅行・集団宿泊的行事 (5)勤労生産・奉仕的行事
<p>※部活動は教育課程外の学校教育活動であるが、以下のように定義されている。(高等学校学習指導要領総則より)</p> <p>生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。</p>		

2 特別活動の学習過程

(1) 合意形成とは

集団活動における合意形成は、他者に迎合することでも、相手の意見を無理にねじ伏せることでもない。複数の方がいる集団では、意見の相違や価値観の違いがあっても当然である。同調圧力に流されることなく、批判的思考力を持ち、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張し、異なる意見や考えを基に、問題を多面的・多角的に考え、様々な解決の方法を模索したり、折り合いをつけたりすることである。

(2) 特別活動の根本原理

特別活動における三つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」は特別活動で育成を目指す資質・能力の重要な要素であり学習過程のそれぞれの場面で適切に発揮させるようにする。このことから、特別活動の根本原理は「なすことによって学ぶ」としている。

(3) 主体的・対話的で深い学び

① 「主体的な学び」の実現

学ぶことに興味・関心を持ち、学校生活に起因する諸課題の改善・解決やキャリア形成の方向性と自己の関連を明確にしなが、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の活動を振り返りながら改善・解消に励む等、活動の意義を理解した取組である。

② 「対話的な学びの実現」

児童生徒相互の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方や資料等を手掛かりに考えたり話し合ったりすることを通して自己の考え方を協働的に広げ深めていくこと。

③ 「深い学び」の実現

深い学びの鍵としては、「見方・考え方」を働かせることが重要になる。特別活動における「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることである。こ

うした「見方・考え方」は特別活動の中で働くだけでなく、大人になって生活していくに当たっても重要な働きをする。

また、特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭くとらえるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」ととらえることが大切である。

3 特別活動の評価

(1) 観点別評価の例

	小学校	中学校	高等学校
知識・技能	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。
主体的に学習に取り組む態度	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての在り方生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

※ 指導要録への記録においては、各学校で自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点の観点内容を記入した上で、内容ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断した場合は、○印を記入する。

ポイント ① 特別活動においても、観点別学習状況の評価を基本とし、評価の観点を設定して評価すること
② 学習指導要領の目標及び特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、各学校が評価の観点を定める。

(2) 特別活動の評価の考え方

- ① 特別活動は、全校又は学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多いことから、評価体制を確立し共通理解を図って、児童生徒のよさや可能性を多面的・総合的に評価する。
- ② 評価を通じて、教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるような工夫改善を図る。

第2節 学級・ホームルーム活動

1 学級・ホームルーム活動

(1) 学級・ホームルーム活動の内容

【小学校】

<p>(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや役割の自覚 ウ 学校における多様な集団の生活の向上</p> <p>(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 基本的な生活習慣の形成 イ よりよい人間関係の形成 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成</p> <p>(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用</p>	<p>指導に当たっての各学年段階の配慮事項</p> <p>〔1、2学年〕 話し合いの進め方に沿って、自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして、合意形成して実践することのよさを理解すること。基本的な生活習慣や、約束やきまりを守るための大切さを理解して行動し、生活をよくするための目標を決めて実行すること。</p> <p>〔3、4学年〕 理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、実践すること。自分のよさや役割を自覚し、よく考えて行動するなど節度ある生活を送ること。</p> <p>〔5、6学年〕 相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り、実践すること。高い目標をもって粘り強く努力し、自他のよさを伸ばし合うようにすること。</p>
--	---

【中学校】

<p>(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや役割の自覚 ウ 学校における多様な集団の生活の向上</p> <p>(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 イ 男女相互の理解と協力 ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成</p> <p>(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ 主体的な進路の選択と将来設計</p>	<p>指導に当たっての配慮事項</p> <p>(1)の指導に当たっては、集団としての意見をまとめる話し合い活動など小学校からの積み重ねや経験を生かし、それらを発展させることができるよう工夫すること。</p> <p>(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。</p>
--	--

【高等学校】

<p>(1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画 ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決 イ ホームルーム内の組織づくりや役割の自覚 ウ 学校における多様な集団の生活の向上</p> <p>(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成</p>	
---	--

イ 男女相互の理解と協力 ウ 国際理解と国際交流の推進 エ 青年期の悩みや課題とその解決 オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解 イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用 ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 エ 主体的な進路の選択決定と将来設計
指導に当たっての配慮事項 (1)の指導に当たっては、集団としての意見をまとめる話し合い活動など中学校からの積み重ねや経験を生かし、それらを発展させることができるよう工夫すること。 (3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の在り方生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

(2) 学級・ホームルーム活動の特質と指導の留意点

	活動の特質	教師の姿勢	指導計画への配慮	活動の中心
(1)学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画	集団での話し合いを通して、集団で目標を決定し、集団で実践する児童生徒の自発的、自治的な活動である。	教師の適切な指導（一方的指導、放任に陥った指導にならない）が大切になる。	児童生徒の自発的、自治的活動であることから望ましい内容(予想される議題例)や時期、時間配当等について大まかに示しておく。	学級・ホームルームの問題を取り上げ、学級としての意見をまとめる等集団決定し、決まったことを協力して実践していく活動が中心となる。
(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	集団での話し合いを通して、個人の目標を決め、個人で実践する児童生徒の自主的、実践的な活動である。	教師の意図的、計画的な指導を中心とする。	学級・ホームルーム担任の意図的、計画的な指導であることから、各学年、学級ごとに、指導する内容(題材名)や時期、時間配当等を明確にして指導計画を作成する。	児童生徒に共通の問題を取り上げ、話し合いを通してその原因や対処法を考え、自己の問題の解決法について自己決定し、強い意志をもって実行していくことが活動の中心となる。
(3)一人一人のキャリア形成と自己実現	学級・ホームルームでの話し合い等を通して個人の目標を意思決定し、各自で実践する児童生徒の自主的、実践的な活動である。	教師の意図的、計画的な指導を中心とする。	学級・ホームルーム担任の意図的、計画的な指導であることから、各学年、学級ごとに、指導する内容(題材)や時期、時間配当等を明確にして指導計画を作成する。	児童生徒に共通した問題を取り上げ、話し合い等を通して一人一人の考えを深め実践につなげることが活動の中心となる。

(3) 学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」、ホームルーム活動(1)「ホームルームや学校における生活づくりへの参画」の指導のポイント

① 事前の活動

学級会オリエンテーション	●学級会の意義の説明 ●合意形成を図ることの意義や方法の確認
問題の発見	● 議題の提案へつながる児童生徒のつぶやき等を見付け、助言することで、問題を発見する視点を伝える。 【議題の集め方】 ● 議題ポストへの提案から。 ● 朝の会や帰りの会・短学活、ホームルームで、話題になったものから。 ● 学級・ホームルーム日誌等にかかれていたこと。 ● 係活動や当番活動の感想から。 ● 児童会・生徒会から依頼されたこと、または学級から児童会・生徒会に提案したいこと。 ※ はじめは教師が助言したり、ときには例示したりすることも必要である。

<p>議題の選定 (学級会の計画や準備に当たる児童生徒)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校では、計画委員会が中心となって活動し、担当する児童を輪番制にして全員が経験できるようにする。中学校や高等学校では、小学校で経験してきたことを生かし、リーダーシップとフォロワーシップを発揮させる。 ● 提案された議題の中から、取り上げる議題を選ぶ。 ● 選ばれなかった議題の取扱いについて提案者に伝える。 <p>【児童生徒に任せることができない内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個人情報やプライバシーにかかわること。 (例) 個人情報の公開等 ● 相手を傷つけるような結果が予想されること。 (例) 個人を責める内容、人権にかかわる内容等 ● 教育課程にかかわること。 (例) 時間割の変更、学級単独での遠足等 ● 校内のきまりや施設・設備の利用にかかわること。 (例) 体育館等の使用、菓子の飲食等 ● 金銭徴収にかかわること。 (例) プレゼント代の集金等 ● 健康・安全にかかわること。 (例) 危険を伴うゲーム等
<p>活動計画の作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動計画は児童生徒と教師で作成し、話し合いを進行する上で活用できるように具体的な内容にする。 <p>【話し合うこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 提案者の思いを生かして提案理由を明確化する。 ● 「話し合うこと」(話し合いの柱)を決定する。 ● 役割を分担する。(司会、黒板記録、ノート記録等、学級の実態に合わせて) ● 進め方、気を付けることを確認する。 <p>【提案理由に入れる内容 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の問題点 (今、こうなってしまう) ・ 考えられる解決の方法 (こうすることで) ・ 解決後のイメージ (こうしたい、こうなりたい)
<p>問題の意識化</p>	<p>【準備すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学級・ホームルームノートを配付し、各自が自分の考えを記入する。教師は助言や励ましの言葉を書いて返し、自信をもって発言できるように配慮する。 ● 事前に議題や提案理由、話し合うこと等について学級・ホームルームコーナーに掲示し、共通理解を図る。 ● 必要に応じてアンケート結果をまとめた資料等を用意し、議題への切実感を高める。 ● 運営に当たる児童生徒には、教師の指導の下、司会や記録の仕方の確認などの準備をさせる。

② 本時の活動 (学級・ホームルーム活動)

<p>学級・ホームルームノートの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動の前に書き、自分の考えをもって話し合いに臨むことができるようにする。 ● 事前に教師が目を通し、提案理由からそれた意見は、個別に指導しておく。 ● 4月から継続的に使用し、話し合いだけでなく、活動後の振り返りも記入できるようにする。また、活動内容(2)(3)のワークシート等を貼ることも考えられる。
<p>短冊の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前に議題等を、厚紙や短冊黒板等を活用して学級・ホームルームコーナーに掲示しておく。それをそのまま学級会で黒板に貼り、使うこともできる。
<p>決まっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 集会の場所や時間、決める遊びの数等の「条件」を明確にする。 ● ホワイトボードなどに書いて掲示しておき、話し合いの時にそのまま使う方法もある。
<p>話し合うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 1単位時間かけて話し合う価値のある内容に絞る。 ● 基本的には、「何をするか」「どのようにするか」「係分担はどうするか」の3つの大きな課題を話し合わせる。(議題によっては2つにしぼって話し合うことも考えられる) ● 発達の段階を踏まえ、「どのようにするか」に重点を置く。 ● 「何をするか」については、学級活動・ホームルームコーナーに掲示する等、事前に考えを出し合っておき、本時は賛成・反対の「くらべ合う」から行う方法もある。 ● 提案理由や話し合いのめあてに沿って、自分の考えを自分の言葉で発表できる

	ように配慮する。
めやすの時間	<ul style="list-style-type: none"> ● めやすの時間を示し、時間を意識して話し合うことができるようにする。 ● 重点を置く内容により多くの時間をかけられるようにする。
議 題	● 本時だけでなく、事前から事後までの一連の流れを議題ととらえる。
提案理由	● 「何のために話し合うか」を明確にし、事前に共通理解を図る。
話し合いのめあて・目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要に応じて、「話し合いのめあて・目的」を設定しておくことが考えられる。 ● 合意形成のためのよりどころやそのための話し合い方等のめあてや目的を設定する。
思考の可視化・操作化・構造化	<ul style="list-style-type: none"> ● 意見を短冊に書き操作しながら、分類・整理して比べやすくする。 ● 賛成・反対マークを、色を変えて貼る等、話し合いの過程が分かるようにする。 ● 「出し合う→くらべ合う→まとめる（決める）」の話し合いの流れが分かるように示し、見通しをもって時間内に決めることができるようにする。
終末の「先生の話」のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● 前回の話し合いと比べてよかったこと。 ● 次回の話し合いに向けての課題。 ● 準備・運営に当たった児童生徒へのねぎらい。 <p>※ 上記の3点についてコメントするとともに、実践への意欲を高める声かけを行うとよい。</p>
「教師の指導・助言」のタイミング	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権を侵害するような発言があったときや話し合いが混乱したとき、提案理由や話し合いのめあてや目的からそれたとき等は、その場で指導・助言を行う。 ● 司会の児童生徒だけではなく、全員に対して助言し、学級全体の話し合いの力が高まるようにする。 ● 小学校低学年などにおいて、はじめに教師が話す時間をとっている場合には、提案者の思い等を確認することが考えられる。

③ 事後の活動

実践の準備	<ul style="list-style-type: none"> ● 互いの活動の進み具合や、お願いしたいこと等を連絡し合うことで、活動意欲を高める。 ● 準備は大切な集団活動である。進んで活動している係を称賛するとともに、活動が滞っている係や児童生徒には、仕事の内容を明確にするなど、個別に助言する。 ● 時間に余裕がある場合は、話し合いの中で役割分担まで決めることもできる。
決めたことの実践	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践でも、話し合いのときの提案理由に立ち返り、目的をもって活動できるように助言する。 ● 個人や集団の頑張りを称賛し、児童生徒が自信をもてるように配慮する。
一連の活動の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● よさを見付ける視点について指導し、自分の言動を振り返る自己評価や、互いによさを認め合う相互評価を取り入れ、成果と課題について整理する。 ● 個人の評価は積み重ねて、自己の変容を振り返る資料とする。 ● 全体についての成果と課題は学級・ホームルームコーナーに掲示し、次の活動へ生かせるようにする。 ● 学級・ホームルームだより等を通じて、家庭にも活動の様子や成果を伝えることで、理解が得られるようにする。 ● 事前・本時・事後の一連の活動を終えるたびに振り返り、次に生かすことで児童生徒の成長を促すことができる。
次の活動へ	● 振り返りを、よりよい生活を目指した新たな議題の提案に生かす。

(4) 学級活動(2)、ホームルーム活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の指導のポイント

① 事前指導

問題意識をもつ	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間指導計画を確認し、個々の児童生徒が共通に解決すべき問題として授業で取り上げる内容を決めて児童生徒に伝え、問題意識を共有化させる。 ● 児童生徒、保護者にアンケート等を実施し、本時で提示する資料を作成する。
---------	---

② 本時の指導

つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケートや調査結果を活用し、自分自身の問題としてとらえられるようにする。 ● 写真やビデオ映像なども資料として活用できる。
さぐる	<ul style="list-style-type: none"> ● 原因を整理して、解決に向けての方向性をはっきりとさせる。 ● 改善の必要性を実感し、改善すべき点に気付くように配慮する。
見付ける	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料を活用して必要な情報を提示する。 ● 児童生徒の情報交換の場をつくる。 ● みんなで話し合い、協力して自己決定へと向かっていけるように配慮する。
決める	<ul style="list-style-type: none"> ● 強い決意をもって、個に応じた、具体的な実践方法や目標が決められるようにする。 ● 自分の力で実現可能で自己評価できる内容にする。

③ 事後指導

実行する	<ul style="list-style-type: none"> ● 自己決定したことを継続して取り組めるようにする。 ● 1週間程度やってみて、実践状況を話し合わせる。 ● 帰りの会などでも実践を振り返らせ、実践意欲の継続化を図る。 ● 学年、学級・ホームルームだより等を通して家庭と連携し、日常生活での意識化を図る。
------	--

(5) 学級活動(3)、ホームルーム活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」の指導のポイント

① 事前指導

問題意識を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間指導計画を確認し、児童生徒が抱える共通の問題について題材として取り上げる。 ● 題材を児童生徒に伝え、問題意識を共有化させる。 ● 題材についての実態把握と資料作成のため、児童生徒、保護者にアンケート等を実施する。
---------	---

② 本時の指導

つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分自身の問題として課題を明確化させる。 ● アンケート調査結果から、気付いたことについて話し合わせる。 ● 写真やビデオ映像等も資料として活用できる。 ● 個人が特定される資料の取り扱いに注意する。
さぐる	<ul style="list-style-type: none"> ● 原因の追求・整理と解決に向けての方向性を明確化する。 ● 改善の必要性を実感し、改善すべき点に気付くよう配慮する。 ● 発言の機会を増やすために、小グループの話し合いを取り入れるとよい。
見付ける	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒同士の情報交換の場を設け、解決方法を追求させる。 ● 必要な情報を提供する。考えを広げたり深めたりできるよう、同級生や上級生の取組を紹介するとよい。
決める	<ul style="list-style-type: none"> ● 話し合ったことを基に、自分に必要な情報を選択させる。 ● 自分に合った具体的な実践方法や目標が自己決定できるよう助言し、必要に応じて個別に支援する。 ● 内容は実現可能なものとし、具体的な数字を入れると意欲が高まる。また、自己評価にもつながる。

③ 事後指導

実行する	<ul style="list-style-type: none"> ● 2週間程度を目安に、自分が立てた計画に沿って学習に取り組ませる。その際、実践記録の提出や掲示により意欲を持続させる。 ● 必要に応じて自己決定の見直しと修正を助言する。
------	---

- 学年、学級・ホームルームだより等で知らせ、家庭との連携を図る。

(6) 学級・ホームルーム内の組織づくりや仕事の分担処理

係活動は、児童生徒の力で学級生活を豊かにするために、自分たちで話し合って係の組織をつくり、それぞれの分担で自主的に行う活動である。

当番活動との違い	<p>当番活動は、学級・ホームルームの生活が、円滑に運営されていくために学級の仕事をみんなで分担し、担当しなければならない活動である。それとは違い、係活動は、児童生徒がその仕事を見いだして創意工夫し、学級・ホームルームの生活をより主体的、自主的に豊かなものにしていく活動である。いずれも学級生活の充実、向上に資するものといえるが、当番活動では責任が、係活動では自主性がそれぞれ問われる。</p> <p>年度始めの時期に、係活動と当番活動の違いをはっきりと意識させることで、各活動が機能するようになる。小学校低学年では、当番的な活動の中から、工夫が広がるような言葉かけも大切である。</p>
活動で大事なものは創意工夫	<p>係の種類や活動内容については、係ごとに考えたり、学級・ホームルーム活動等で話し合ったりさせることで、創意工夫して取り組めるようにする。</p>
協力して学級生活を楽しくする活動	<p>係活動コーナーに掲示するポスターは、係ごとに形や色を工夫し、係の内容やアピール等を書かせる。話し合いを生かして、書き加えたり修正したりすることも大切である。</p> <p>また、自主的な活動ができるように係活動ロッカーを設置するとよい。さらに、自分の係だけではなく、学級・ホームルームの係全体が盛り上がるようにアイデアを出し合える係ポストを設置したり、朝の会や帰りの会・短学活・ホームルームで取組を報告し合ったりすることも効果的である。</p> <p>学期や年度の終わりには、係活動発表会を行うことによって、係ごとのよさを認め合ったり、改善策や係相互の協力関係が生まれたりして活性化が図られる。</p>

2 学級・ホームルーム活動の計画

1 単位時間の学級活動・ロングホームルームは、時間割の中で曜日と時間が指定されている（全校統一かどうかは学校による）。内容については、小・中学校では各学年で統一されていることが多く、高等学校ではクラスごとに計画書を作成することが多い。

(1) 小学校の例

学級活動 題材配当表		第6学年	
計画作成上特に工夫・配慮した事項	◎ お互いを信頼し合い、支え合いながら学級や学校をより良くしようとする態度を育てるために、自らの問題に気付かせ、話し合い活動を通して自主的に解決できるようにする。		
月	題材名	予想される議題等	時数
4	・ 学級の組織づくり ・ 最上級生の役割 ・ 縦割り清掃の進め方	○ 6年○組を始めよう ○ 6年生の役割を考えよう ○ 明るくきれいな学校づくりを考えよう	2 1 1
5	・ 運動会の計画	○ 運動会を成功させよう	1

(2) 中学校の例

【第2学年 学級活動】

計画作成上特に工夫・配慮した事項
◎ 望ましい人間関係や集団生活を形成するために、自分の思いを相手に伝え、主体的に問題を解決しようとする生徒の育成に努める。

関連	A教科 B特活 C総合 D道徳 E情報 F環境 G安全 H食育 Iキャリア Jその他	内容	① 学校や学級の生活づくり	
	② 適応と成長及び健康安全 ③ キャリア形成と自己実現			
学月	単元（主題・題材）名	関連	内容	時数
4	・ 学級組織の編成	B	①	2
	・ 2学年の抱負	B、I	②	1
	・ 放射線とわたしたちの生活	G	②	1
5	・ 社会科見学に向けて	A、B、C	①	2

(3) 高等学校の例

〇〇年度 ロングホームルーム 年間計画表（水曜日 6校時）
普通科 3年 5組 担任 鈴木 昌文

学月日	主題	場所	関連行事等	備考
4 10	学年集会（3学年の心構え）	第2体育館	オリエンテーション	
	自己紹介	教室		
	進路について考える	教室	進路希望調査	
5 1	心身の健康①	視聴覚室		

第3節 児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事

1 児童会活動、クラブ活動【小学校】

(1) 児童会活動

児童会は全児童によって組織するが、運営は主として高学年が行う。代表委員会活動、委員会活動、児童会集会活動の3つの形態がある。

① 代表委員会について

組織	<ul style="list-style-type: none"> ● 主に高学年の学級代表、各委員会の代表、必要に応じてクラブ代表が参加する。 ● 話し合い活動の計画や準備等を行い、円滑に運営する組織として運営委員会（児童会計画委員会）を設置し、適宜交替して経験ができるよう工夫することが必要である。
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童会ポストや、年間の活動計画から議題を選ばせる。 ● 議題に応じて各学級や各委員会で話し合っておくことができるように事前に知らせておく。 ● 話し合い活動の計画は運営委員会と担当教師で作成する。話し合いを進行する上で活用できるよう、具体的な内容にする。 ● 全校児童に配慮した話し合いになるよう、必要に応じて事前に低・中学年の情報を集めさせておく。 ● 各学級や各委員会で話し合ったことを持ち寄り、整理しながら、よりよいものを決めさせる。 ● 具体的な活動をイメージしながら話し合うことができるように、過去の活動の映像・資料などを参考にさせる。
準備	<ul style="list-style-type: none"> ● 決定したことは、各学級や各委員会の組織を生かして全校に知らせる。 ● 協力して準備ができるように、役割分担、準備の内容やスケジュールを分かりやすく工夫させる。
実践	<ul style="list-style-type: none"> ● 決定した内容に全校で取り組ませる。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動全体を振り返る時間を設定し、豊かな学校生活づくりの視点で自己評価させる。

② 委員会活動について

組 織	● 主に高学年の全児童が、いくつかの委員会に分かれて活動する。例えば集会、新聞、放送、図書、環境美化、飼育栽培、健康、ボランティアなどが考えられる。
計 画	● 低・中学年にも配慮し、委員全員の意見を集約して活動内容を決める。これまでの成果や反省を生かし、自分たちでできることか、よりよい学校生活づくりになるか等について考えながら計画させる。
準 備	● 6年生が中心になり、委員全員が協力できるよう、活動の見通しをもたせた上で準備させる。
実 践	● 低・中学年との交流が深まるように配慮する。 ● 自主的に活動できたり、協力できたりしたことを称賛する。
振り返り	● 活動全体を振り返る時間を設定し、よかった点や見直すべき点を話し合わせ、次の活動につながるようにする。 ● 学校生活の向上という視点で今後の活動への見通しがもてるようにさせる。

③ 児童会集会活動について

児童会の主催で行われる集会活動であり、全校の児童で行われる全校児童集会、学年の児童で行われる学年児童集会などがある。この集会は、児童の自発的、自治的な活動として行われるものであって、学校行事として行われるものとは計画および運営において異なる。

(2) クラブ活動

設置と所属	● 主として第4学年以上の共通の興味・関心をもつ児童によって組織される。 ● 「自分の興味のあるものは何だろう?」「自分のよさを生かせるものは何だろう?」「こんな活動をしてみたい」という子どもの思いを大切に、決定させる。
計画と運営	● 教師が作成した指導計画に基づき、児童が協力して活動計画を立てる。その際、「クラブ活動は子どもたちの創意工夫で楽しむ活動」であることを伝える。 ● クラブに所属する児童全員の話し合いによって、活動の内容や役割分担などの計画を決める。
クラブを楽しむ活動	● 活動計画に基づいて、同学年や異学年の友達と仲良く協力し、創意工夫しながら、活動を楽しめるように配慮する。
成果の発表	● クラブ発表会で、全校の児童や地域の人々に成果を発表させる。そのほか学校行事や全校集会での発表や一定の期間、校内放送、展示、実演などの方法で発表することも考えられる。 ● 年度末のクラブ発表会をはじめとした「クラブの成果の発表」は、次年度の設置希望の調査に活用することもできる。

(3) 事後の活動

振り返り	● 活動全体を振り返る時間を設定し、よかった点や見直すべき点を話し合わせ、代表委員会等を通して共通理解を図り、全校生で活動をさらに活性化させる。 ● 高学年の場合は、中学校の生徒会活動へのつながりを意識させる。
------	--

2 生徒会活動【中学校・高等学校】

生徒会活動は、全校の生徒を会員として組織する。小学校での児童会活動で身につけた態度や能力を

基礎にして生徒の自発的、自治的に活動する態度や能力を高めていくようにすることが必要である。
また、組織は学校の実情に即して作られるので、その名称や内容については学校により違いがある。

(1) 組織

生徒総会	● 全校の生徒による生徒会の最高審議機関である。年間の活動計画の決定、年間の活動の結果の報告や承認、生徒会規約の改正等、全生徒の参加の下に、生徒会としての基本的な事項についての審議を行う。
生徒評議会 (中央委員会など)	● 生徒総会に次ぐ審議機関として、生徒会に提出する議案などの審議、学級や各種の委員会から出される諸問題の解決、学級活動や部活動などに関する連絡調整等、生徒会活動に関する種々の計画やその実施の審議に当たる。
生徒会役員会 (生徒会執行部など)	● 年間の活動の企画と計画の作成、審議を必要とする議題の提出、各種の委員会の招集など、生徒会全体の運営や執行に当たる。また、学校の生徒を代表する組織として、様々な取組の推進的な役割を担ったり、学校の良さや特徴などの情報を学校外に発信する等の役割を担ったりする。
各種の委員会 (常設の委員会、特別に組織される実行委員会など)	● 例えば、生活規律に関する委員会、健康・安全や学校給食に関する委員会、ボランティアに関する委員会、環境美化に関する委員会、合唱祭や文化祭、体育祭などの実行委員会など、学校の実情や伝統によって種々設けられ、生徒会活動における実践活動の推進の役割を担う。

(2) 生徒会行事

① 事前の活動

実施計画の作成 (生徒会役員会)	● ねらい等をよく確認し、事前に話合いの手順等の打ち合わせを生徒会長を中心に十分に行っておく。
実施計画の提案・承認 (生徒評議会)	● 実施計画の提案・承認について話合いを行う。 ● 各委員会や各学級の意見を尊重する。 ● ねらい、日時、役割分担等活動の内容を各委員長、学級委員へ周知・徹底させる。 ● 決定した内容について全教職員が共通理解を図る。
準備	● 全生徒で取り組む体制を生徒会役員が中心となって作る。 ● 各委員会、各学級ごとに分担して準備する。

② 本時の活動

実施	● ねらいに沿って活動できるように助言する。 ● それぞれの役割分担に従って責任をもって活動できるようにする。 ● 個人や集団の自主的な活動を称賛し、生徒が自信をもてるように配慮する。
----	--

(3) 事後の活動

振り返り	● 活動全体を振り返る時間を設定し、よかった点や見直すべき点を話し合わせ、次の活動につながるようにする。 ● 学校生活の向上という視点で今後の活動への見通しがもてるようにさせる。
------	--



生徒会の行事が自主的に行われるかどうかは事前指導が決まる

3 学校行事

(1) 概要と具体例 ※ () は中学校・高等学校

儀式的行事	<ul style="list-style-type: none"> ● 厳粛で清新な気分を味わわせ、新しい生活への動機付けとさせる。 ● 入学式、卒業式、始業式、終業式、修了式（立志式）、開校記念に関する儀式、着任式、離任式、朝会等が考えられる。
文化的行事	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の成果を発表させたり、文化や芸術に親しませたりする。 ● 学芸会（文化祭）、学習発表会、作品展示会、音楽会（合唱祭）、読書感想発表会、クラブ発表会、音楽鑑賞会、演劇鑑賞会、地域の伝統文化等の鑑賞会等が考えられる。
健康安全・体育的行事	<ul style="list-style-type: none"> ● 心身の健全な発達、安全で規律ある集団行動の体得、体力の向上等を促す。 ● 健康診断（薬物乱用防止指導）や給食に関する意識を高める等の健康に関する行事、避難訓練（防災訓練）や交通安全、防犯等の安全に関する行事、運動会（体育祭）や球技大会等の体育的な行事等が考えられる。
遠足(旅行)・集団宿泊的行事	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然や文化に親しませ、集団生活や公衆道徳の望ましい体験を積ませる。 ● 遠足、修学旅行、移動教室、集団宿泊、野外活動等が考えられる。
勤労生産・奉仕的行事	<ul style="list-style-type: none"> ● 勤労の尊さや生産の喜びを体得させ、社会奉仕の精神を養わせる。 ● 飼育栽培活動、校内美化活動、地域社会の清掃活動、公共施設等の清掃活動、福祉施設との交流活動、（職場体験）、（各種の生産活動）、（上級学校の訪問・見学）等が考えられる。

(2) 学校行事における指導上の留意点

特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校行事は、各学校の創意工夫を生かしやすく、特色ある学校づくりを進める上で有効な教育活動である。何を学ばせたいかを明確に示し、教師全員がそれを理解して指導に当たることが大切である。 ● 地域や保護者のニーズ、児童生徒の実態、教師の教育観等から、毎年新鮮な目で学校行事を見直し、改善を図るようにする必要がある。
言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 体験活動を通して気付いたことを振り返り、まとめたり発表したりする活動を充実させることが言語能力の育成につながる。 ● その場限りの体験活動で終わらせることなく、活動の節目にも、話す、聞く、読む、書く等の活動を意図的に取り入れていくことが大切である。
体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 体験活動を通して、公共の精神が養われ、集団活動を行うのに必要な生きて働く知識や技能を身に付けさせる。 ● 集団宿泊活動では、学校の実態や児童生徒の発達の段階を考慮しつつ、自然体験や社会体験等について、一定期間にわたって行うと効果的である。
自主性・協調性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校行事は教師が意図的・計画的に実施するが、必要に応じて児童生徒の発意・発想を効果的に取り入れることにより、自主性をはぐくむことができる。 ● 様々な学校行事を通して、児童生徒の所属感や連帯感が高まり、愛校心がはぐくまれていく。こうした集団意識が、協調性の育成につながり、学級・ホームルーム経営の充実にも直結する。
異年齢集団による交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校行事は、学年や学校を単位として活動を行うが、できるだけ複数の学年の児童生徒が参加できるように工夫することにより、異年齢の他者ともよりよい人間関係を築くことができるようになる。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 高学年ではリーダーシップや思いやりの心が育ち、低学年では上級生に対するあこがれの気持ちが育つものである。
家庭や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校行事は、多くの地域の方々や保護者の参加を得られるように工夫することで、学校で生き生きと学んだり生活したりする児童生徒たちの様子を見てもらうよい機会となる。 ● 積極的に家庭や地域の諸団体と連携を図ったり、地域の施設を活用したりすることにより、効果的な体験ができるようにする。その際、「綿密な打合せ」や「ねらいや成果などの情報発信」を心がけるようにする。

POINT

卒業学年（小6・中3・高3）の学級・ホームルーム担任になると、卒業式後の最後の学級活動・ロングホームルーム活動の時間をどうするか、思い悩むことがある。卒業生にとっては学校生活最後の印象深い瞬間であり、それを見守る保護者の思いも格別である。また、担任の思いや個性が色濃く反映される場面でもある。担任として児童生徒や保護者への感謝、励まし、教訓等を伝えつつ、思い出に残る時間にしたいものである。

まず、自分の学生時代の経験を思い出したり、周囲の先生の経験談を聞いたりしながら、児童生徒の実態に応じて自分なりの組み立てを考えたい。その際、学年内での共通理解や、見送り（門送）までの時間を考慮し、無理のない内容にすることも大切である。

以下、実際に各校種で行われた実践例である。

- 卒業証書を手渡すときに、一人ずつコメントを伝える。
- 担任としての思い、人生の教訓等を話す。
- 卒業への思い、友達や親への感謝等を一人一言ずつ発表させる。
- 合唱コンクールのクラスの曲を、生徒と一緒に歌う。
- クラスの自慢を模造紙にまとめて発表する。
- クラスの軌跡を動画等にまとめて流す。
- 最後の学級・ホームルーム通信を読み上げる。
- 学級・ホームルーム日誌を紹介して、クラスの思い出を振り返る。
- 一人一人文面の違う担任作成の卒業証書・感謝状を読み上げて手渡す。
- ギターで弾き語りをする。



卒業式後の学級・ホームルーム活動は、教室で全員が集まる最後の時間となる

第4節 キャリア教育の意義

1 キャリア教育の必要性

(1) キャリア教育が求められている背景

今日、情報化、グローバル化、少子高齢化など社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等の子どもたちをとりまく急激な変化は、子どもたち自らの将来のとりえ方に大きな変化をもたらしている。

子どもたちは自分の将来を考えるのに役立つモデルを見付けにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことが容易ではなくなっている。また、人間関係をうまく築くことができない、自分で意思決定ができない、自己肯定感をもてない、将来に希望をもつことができないといった子どもが増加している。

とどまることなく変化する社会の中で、子どもたちが希望をもって、自立的に自分の未来を切り拓いて生きていくためには、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠である。

したがって、キャリア教育の必要性の高まりは、「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようにする教育が強く求められていることを意味する。

(2) キャリア教育の定義

キャリア教育とは、「社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア※発達を促す教育」（※キャリア・・・人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分の役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね）と言える。

そのために、幼児期の教育から高等教育まで、発達の段階に応じ体系的に実施することや、様々な教育活動を通じ、基礎的・汎用的能力を中心に育成するといったことが大切になる。

各学校段階におけるキャリア教育推進の主なポイントとしては次のことが挙げられる。

小学校・・・働くことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大等、社会性、自主性・自律性、関心・意欲等を養う。

中学校・・・社会における自らの役割や将来の生き方、働き方等を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導く。

後期中等教育・・・生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成し、これを通じて勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立する。

高等教育・・・学校から社会・職業への移行を見据えて、自らの視野を広げ、進路を具体化し、それまでに育成した社会的・職業的自立に必要な能力や態度を伸張・深化させる取組を教育課程の内外での学習や活動を通じ充実

(3) キャリア教育で育成すべき力

キャリア教育で育成すべき力は、分野や職種にかかわらず社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力という観点から、「基礎的・汎用的能力」として次の四つの能力によって構成される。

① 人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画することができる力

② 自己理解・自己管理能力

自分と社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、進んで学ぼうとする力

③ 課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

④ キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方について、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

(4) キャリア教育の課題とキャリア教育充実のために

① キャリア教育の課題

キャリア教育の理念が浸透してきている一方で、次のような課題が指摘されている。

- ・ 職場体験活動のみをもってキャリア教育を行ったものとしているのではないか
 - ・ 社会への接続を考慮せず、次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行っているのではないか
 - ・ 職業を通じて未来の社会を作り上げていくという視点に乏しく、特定の既存組織のこれまでの在り方を前提に指導が行われているのではないか
 - ・ 将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないか
- ※ 教育課程全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要

② キャリア教育充実のために

児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

POINT

- ※ キャリア教育は「勤労観、職業観」のみを育てる教育ではない
勤労観・職業観の育成に過度に焦点が絞られがちであるが、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力の育成が、キャリア教育の中心的な課題である。
- ※ 職業教育はキャリア教育と同義ではない
職業教育は、一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成するものである。

(5) キャリア教育の基本的な方向性

- 特別活動の学級活動・ホームルーム活動を要としつつ、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における個別指導としてのカウンセリング等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じて実施すること。
- 特に日常の教科等の学習指導においてキャリア教育の視点を大事にし、将来の生活や社会と関連付けながら見通しをもったり、振り返ったりしながら学ぶ「主体的・対話的で深い学び」を実現すること。
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である「基礎的・汎用的能力」を育成すること。
- キャリア教育を実践し、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結びつけることにより、児童生徒の学習意欲を喚起すること。

[参考 文部科学省 2018年2月「キャリア教育の推進」資料]

2 キャリア教育と進路指導の関係

(1) 進路指導の定義

進路指導は、生徒の一人ひとりが、自分の将来の生き方への関心を深め、自分の能力・適性等の発見と開発に努め、進路の世界への知見を広くかつ深いものとし、やがて自分の将来への展望をもち、進路の選択・計画をし、卒業後の生活によりよく適応し、社会的・職業的自己実現を達成していくことに必要な、生徒の自己指導能力の伸長を目指す、教師の計画的、組織的、継続的な指導・援助の過程である。

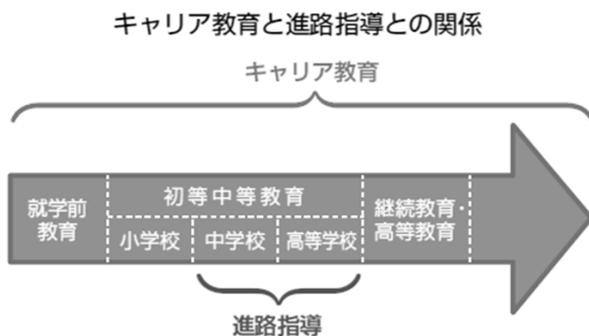
(文部省「進路指導の手引－高等学校ホームルーム担任編」日本進路指導協会 昭和58年)

(2) 進路指導の諸活動

- ① 個人資料に基づいて生徒理解を深める活動と、正しい自己理解を生徒に得させる活動
- ② 進路に関する情報を生徒に得させる活動
- ③ 啓発的経験を生徒に得させる活動
- ④ 進路に関する相談の機会を生徒に与える活動
- ⑤ 就職や進学等に関する指導・援助の活動
- ⑥ 卒業者の追指導に関する活動

(文部省「進路指導の手引－中学校学級担任編(三訂版)」平成6年)

(3) キャリア教育と進路指導との関係



中学校と高等学校における進路指導は、以上のように教育活動全体を通じ、計画的、組織的に行われるものであり、この点においてキャリア教育との差異はない。また、その定義・概念やねらいも、キャリア教育とほぼ同じと言ってよいだろう。しかし、進路指導が中学校・高等学校に限定される教育活動である点に大きな違いがみられる(左図参照)。

また、中学校や高等学校での進路指導の実践が入学試験・就職試験に合格させるための支援や指導に終始する活動(出口指導)にかたよりがちであることもふまえ、社会的・職業的自立が児童生徒の発達課題の達成と深くかかわりながら、順次段階をおって発達していくことを踏まえて、児童生徒の全人的な成長・発達を支援する視点に立つキャリア教育が必要とされているのである。

[参考 文部科学省 2011年11月 「高等学校キャリア教育の手引き」資料]

第5節 特別活動の授業参観（事前・事後研究）

<学級・ホームルーム活動（1）の授業を観る視点>

	視 点
全 体	① 話し合いに必要感を感じている。 ② 児童生徒全員の時間になっている。 ③ 児童生徒全員で協力してやろうという意欲が感じられる。
話 合 い	① 少しでも個人の考えを表出しようとしている。 ② 全員が夢中になり、時間内に何とかまとめようとしている。 ③ 司会グループだけでなく全員で話し合いを進めようとしている。 ④ 全員が納得のいく結論になっている。 ⑤ 次の活動への意識化、意欲化につながる話し合いとなっている。 ⑥ 全員が話し合いの仕方を理解している。 ⑦ 役割を持った児童生徒は責任と工夫をもって活動している。
雰 囲 気	① 学級・ホームルーム全体に温かい雰囲気や許容的な人間関係が見られる。 ② 相手の立場を認めようとする態度が育っている。 ③ 児童生徒や教師の中に自分の学級を愛してやまない心や情感がある。
教 師 の 姿 勢	① 教師の児童生徒を見る温かいまなざしがある。 ② 児童生徒一人一人の考えや発言を大切にしようとしている。 ③ 話し合いの結果より、話し合い活動そのものを大切にしている。 ④ 自治的活動の促進を根底においている。 ⑤ 自治的活動の範囲外事項が押さえられている。
環 境	① 学級・ホームルーム活動の指導にふさわしいものとなっている。 ② 児童生徒の日常活動の様子がわかる工夫がなされている。 ③ 児童生徒一人一人を大切にしている環境経営となっている。
先 生 の 話	① 最後の5分間を確保している。 ② 話し合いの全体的な内容に対する評価をしている。 ③ 計画委員会、司会グループへの賞賛と評価をしている。 ④ 一人一人の児童に対する励ましと評価をしている。 ⑤ 今後の活動への意欲付けをしている。

<学級・ホームルーム活動（2）（3）の授業を観る視点>

	視 点
事 前	① 学級・ホームルーム全体で学級・ホームルーム活動（2）（3）の共通理解事項を設定している。 ② 児童生徒の実態を十分把握している。 ③ 家庭の実情を十分把握している。 ④ 資料提示計画を立てている。 ⑤ 保護者への配慮事項を押さえている。
題 材	① 年間指導計画にある系統性をもった題材である。 ② 発達の段階に応じた題材である。 ③ 児童生徒の必要性・必然性のある題材である。 ④ 学級・ホームルーム全員の共通問題としての題材である。 ⑤ 1時間の授業時数を確保して行う価値がある題材である。
学 習 指 導 案	① 児童生徒の実態に即している。 ② 学級・ホームルーム活動(3)の特質に応じている。 ③ ねらいが焦点化されている。 ④ ねらい、指導内容、資料等に整合性がある。 ⑤ 他の教科等との内容的な関連が図られている。
導	① 児童生徒の自主的活動を取り入れる工夫がなされている。

入	<ul style="list-style-type: none"> ② 児童生徒の関心・意欲を高める工夫がなされている。 ③ 課題解決への意識を高める工夫がなされている。 ④ ねらいに即した資料の吟味がなされている。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ① 指導内容に即した資料の精選・重点化がなされている。 ② ねらいに即して、発問が吟味されている。 ③ 集団思考の場が確保されている。 ④ 児童生徒の考えを引き出す話し合いになっている。 ⑤ G TやT Tの意義・役割が果たされている。 ⑥ 板書構成が吟味されている。 ⑦ 児童生徒の自主的な活動を重視している。 ⑧ 知識注入の展開に終始しないようにしている。
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己決定の場を確保している。 ② 児童生徒一人一人が具体的に何をやればよいか決定できている。 ③ 実践意欲の高揚を図る工夫がなされている。 ④ 個別指導を意図的に行っている。
事 後	<ul style="list-style-type: none"> ① 継続実践し、結果を出させる工夫がなされている。 ② 個別指導、教育相談の機会を設定している。 ③ 保護者への配慮・協力依頼が適切である。

第6節 特別活動の研究授業（学習指導案の作成と事前・事後研究）

1 学級・ホームルーム活動（1）学習指導案の形式

第5学年1組 学級活動（1）学習指導案

日時：○月○日（○） 場所：教室
指導者 ○○ ○○

1 議題 5年生がんばったね会をしよう

2 児童（生徒）の実態と議題選定の理由

※ 児童（生徒）自らが「学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画」について問題を見だし、話し合い、計画・実践する実践的態度についての現状を述べる。

※ 議題が選定された背景やこの議題に学級全体が取り組むことで、学級・ホームルームや学校生活がどのように向上し、児童（生徒）一人一人にどのような資質・能力が身に付くことが期待できるかについて、教師の願いや指導観等を記述する。

3 評価規準と育成を目指す資質・能力

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	みんなであらゆることについて理解している。	楽しく豊かなことについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	学級・ホームルームや学校生活に主体的に取り組もうとしている。
育成を目指す資質・能力	<p>※ 学級・ホームルーム活動(1)の評価規準〔学校として見定めた評価の観点ごとに、発達の段階に即して設定した評価規準〕を踏まえ、本議題のねらい、内容に即して、十分満足できる活動の状況を「育成を目指す資質・能力」として記述する。丁寧に「計画委員」、「話し合い」、「集会活動」などに分けて記述することも考えられる。</p> <p>※ 育成を目指す資質・能力は、事前、本時、事後の活動全体を通して、各観点をバランスよく設定することが望ましいが、必ずしも本時の中で全ての観点について評価する必要はない。例えば、事前で「主体的に学習に取り組む態度」を、本時で「知識・技能」と「思考・判断・表現」を中心に評価することも考えられる。</p>		

4 事前の活動

	活動内容	いつ	指導・支援	育成を目指す資質・能力と評価方法
話し合いの準備	<p>※以下のような「問題の発見」から「振り返り」までの活動、計画委員会の活動について記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活向上に関わる諸問題を見付け、提案をする。 実態、学級経営の充実等の観点から議題を選定する。 議題や提案理由を知って、各自が意見をもつ。 話し合いの柱や順番等を見定め、活動計画を作成する。 		<p>※左の活動を行う上で、教師が何をどのように工夫したり、配慮したりするか等を記述する。</p>	<p>※以下のような評価の例が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主的に、計画づくりに取り組む等よりよい生活をつくらうとしている。 <p>（主体的に学習に取り組む態度） 〔アンケート調査〕</p>
				朝・帰りの会（短学活・SHR）等「どの時間で行う予定か」や「委員会の活動か全員の活動か」なども記入する。
話し合い	※学級・ホームルーム（集団討議による目標の集団決定）		本時の展開を参照	太枠で囲む等して、本時の位置付けを明確にする。

5 本時のねらい

※ 提案理由を踏まえた話し合いを展開するために、本時の活動で特に留意する点を考え、簡潔に記述する。

6 児童（生徒）の活動計画

議 題	〇〇〇について考えよう	
提案理由	※ 教師とともに作った提案理由について記述する。	
役割分担	※ 司会、黒板記録、ノート記録、提案者等の児童（生徒）名を記入する。 (中学校では、議長、黒板書記、ノート書記という名称を使っている学校もある。)	
	話し合いの順序	気を付けること
	1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題・提案理由の確認 4 話し合い ① 〇〇をどうするか ② 〇〇を決めよう 5 決まったことの発表 6 先生の話 7 おわりの言葉	計画委員の児童（生徒）が、進行に即して気を付けることを記述する。あらかじめ様式を決め、印刷しておき、児童が書き込めるようにしておくとい。

7 教師の指導計画（指導上の留意点）

※ 話し合いの収束の道筋に即した助言や個に即した助言等について記述する。

話し合いの順序	指導上の留意点	育成を目指す資質・能力と評価方法
1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題・提案理由の確認 4 話し合い ① 〇〇をどうするか ② 〇〇を決めよう 5 決まったことの発表 6 先生の話 7 おわりの言葉	教師が児童（生徒）の実態を踏まえ、活動を見守りながらも、より自治的に深まりのある話し合いができるようにするための助言等を記述しておく。	評価規準に即して、本時の展開における「育成を目指す資質・能力」を示しておく。

8 事後の活動

	活動内容	いつ	指導・支援	育成を目指す資質・能力と評価方法
実践	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに準備をする。 集会活動を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 〇〇の児童（生徒）には〇〇の助言や励ましを行い、よりよく実行できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 協力し、責任を果たして計画的に活動している。 (思考・判断・表現) 〔観察・努力カード〕

振り返り	・学級・ホームルーム全体や個人としてよかったこと、改善点等について話し合い、次の活動に生かす点を明らかにする。	・視点を与えて、成果と課題から次に生かす点を明らかにすることができるようにする。	・自他のがんばりや問題について考え、次に生かす点を明らかにしている。 (思考・判断・表現) 〔観察・努力カード〕
------	---	--	--

2 学級・ホームルーム活動(2)(3)学習指導案の形式

第〇学年〇組 学級・ホームルーム活動(2)学習指導案

日時：〇月〇日(〇) 場所：教室
指導者 〇〇 〇〇

1 題材(例)バランスのよい食事

2 児童(生徒)の実態と題材設定の理由

※ 児童(生徒)が自己の課題として真剣にとらえ、目標や方法などを自己決定できるように、学級・ホームルームにおける児童(生徒)の実態から、この題材を取り上げる必要性等、教師の題材観、指導観についてまとめる。

※ 必要に応じて、各教科、道徳科及び総合的な学習(探究)の時間との関連を図った計画的指導や学年段階、発達の段階に即した系統的な指導にかかわる配慮事項などについても記述する。

3 評価規準と育成を目指す資質・能力

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	楽しく豊かな… …自己の課題を知り …について理解している。	楽しく豊かな… …自己にあった解決方法等を考え 判断し、実践している。	楽しく豊かな… …関心をもち、 …取り組もうとしている。
育成を目指す資質・能力	※ 学級・ホームルーム活動(2)の評価規準〔学校として見定めた評価の観点ごとに、発達の段階に即して設定した評価規準〕を踏まえ、本題材のねらい、内容に即して、十分満足できる活動の状況を「目指す児童(生徒)の姿」として記述する。 ※ 育成を目指す資質・能力は、事前、本時、事後の活動全体を通して、各観点をバランスよく設定することが望ましいが、必ずしも本時の中で全ての観点について評価する必要はない。例えば、事前で「主体的に学習に取り組む態度」を、本時で「知識・技能」と「思考・判断・表現」を中心に評価することも考えられる。		

4 事前の活動

	活動内容	いつ	指導上の留意点・資料	育成を目指す資質・能力と評価方法
話合いの準備	※以下のような「題材の提示」から「振り返り」までの活動内容について記述する。 ・題材を知る。 ・アンケート調査を実施し、結果		※左の活動を行う上で、教師が何をどのように工夫したり、配慮したりするかなどを記述する。 ・年間指導計画で設定した題材について事前に予告しておき、関心をもって生活をさせたり、問題意識を高めておいたりする。	※評価規準に即して一連の展開における「育成を目指す資質・能力」を示しておく。 ・〇〇の課題について、真剣に受け止めている。 (主体的に学習に取り組む態度)

	をまとめる（児童（生徒）が行う場合） ・自分の問題を考えておく。	・学級・ホームルームの児童（生徒）の問題の状況を調査等により確認し、家庭への説明を行ったり、協力を依頼したりしておく。	[アンケート調査] 太枠で囲む等して、本時の位置付けを明確にする。
本時	※協働思考による個人目標の自己決定	本時の展開を参照	
事後	・〇〇の期間、決めたことについて努力する。 ・振り返りをして、さらなる課題をもつ。	・〇〇の児童（生徒）には〇〇の助言や励ましを行い、確実に実行できるようにする。 ・ペアでがんばりを確かめ合い、がんばりカードに励ましの言葉を書き合えるようにする。	・自分で決めたことについて粘り強く努力している。 (思考・判断・表現) [観察・努力カード]

5 本時のねらい

※ 自他との関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どんな意思決定ができるようにしたいのか、指導のねらいを端的に記述する。

6 本時の展開

学習活動	時間	指導上の留意点	育成を目指す資質・能力と評価方法	資料
・題材とその実態について知る。		※以下のように、児童（生徒）が左記の活動を行う上での、資料や活動の場づくり、グループでの話し合い、ティームティーチング、ゲストティーチャー、簡単な実験、体験談を聞く等の工夫する点を記述する。 ・課題の現状、事実等が学級・ホームルームの一人一人に共通する課題であることが理解できるようにする。	※以下のように評価規準に即して、本時の展開における「目指す児童（生徒）の姿」を示しておく。 ・課題の重要性について理解している。 (知識・技能) [ワークシート]	・グラフ、アンケート調査や実態調査結果、映像等。
・課題の原因や様々な問題について知る。 ・課題の解決方法等について考える。		・課題の原因について理解し、どうしても改善が必要であることが実感できるようにする。 ・様々な解決方法が出し合えるようにする。	・課題の原因（リスク、仕組み、影響等）について理解している。 (知識・技能) [ワークシート] ・課題の解決方法について考えている。 (思考・判断・表現) [観察・ワークシート]	・科学的な資料、実物、道具、写真、映像等。 ・図版、絵、写真等。
・自分の課題にあった「努力すべ		・自分自身の課題を確認できるように	・自分の課題にあった実行可能な方法等を決め	・自己決定カードやがんばり

<p>きこと」を決める。</p> <p>・互いに自分の努力することを発表し合う。</p>	<p>し、何をどのように努力したらよいかを考え、より具体的な自己決定ができるようにする。</p> <p>・互いのがんばりについて励まし合えるようにする。</p>	<p>ている。</p> <p>(思考・判断・表現) [観察・カード]</p>	<p>カード等。</p>
<p>7 事後指導</p> <p>※ 実践に向けて意欲を高めるための指導（活動）、自己決定したことの見直しのための指導（活動）、途中経過等を確認し合うための指導（活動）、ある一定期間実行後に振り返りまとめるための指導（活動）、さらなる活動へ発展させるための指導（活動）、自己決定したことにに向けて努力したこと、そのことによる成果等が実感できるようにするための指導（活動）等について記述する。</p>			

参考資料

- 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」文部科学省
- 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」文部科学省
- 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編」文部科学省
- 「高等学校における学習評価に関する参考資料」, 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会高等学校部会, 平成28年6月
- ※以下、いずれも国立教育政策研究所 教育課程研究センター発行の指導資料
- 「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料), 平成30年12月
- 「学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)」(教員向け指導資料), 平成28年3月
- 「学校文化を創る特別活動(高校編)ホームルーム活動のすすめ」, 平成30年8月
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 [小学校 特別活動]
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 [中学校 特別活動]
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 [高等学校 特別活動]